

教 育 委 員 会 議 事 録

(令和3年度 教育委員会 第7回定例会)

開会 令和3年10月13日(水)

閉会 令和3年10月13日(水)

午前9時00分

午前9時37分

場所 西宮市役所6階教育委員会会議室

出席委員	教育長 重松 司郎 委員 側垣 一也 委員 長岡 雅美 委員 藤原 唯人 委員 山本 幸夫	欠席委員		
会議に出席した職員	職	氏 名	職	氏 名
	教育次長	藤井 和重	学事課長	因幡 成人
	教育次長	佐々木 理	学校保健安全課長	濱本 新
	教育総括室長	薩美 征夫	教育企画課係長	瀧井 佑介
	参与(人事担当)	八橋 徹		
	参与(教育政策推進担当)	岡崎 州祐		
	学校支援部長	吉田 巖一郎		
	学校教育部長	漁 修生		
	教育総務課長	竹村 一貴		
	教育企画課長	原田 博司		
署 名	教育長		委員	

付 議 案 件

<教育長報告>

<議 題>

報告第15号 学校歯科医の解嘱及び委嘱の件 (学校保健安全課)

<一般報告>

一般報告① 児童生徒の状況について **非公開** (学校保健安全課)

一般報告② 令和3年度募集(令和4年度入学)西宮市立高等学校の
生徒募集定員の決定について (学事課)

<資料による情報提供>

第13回(令和3年9月)定例会市議会における一般質問の答弁について (教育総務課)

以 上

傍 聴

1名

重松教育長	<p>ただいまより、令和3年度 第7回 教育委員会定例会を開催します。</p> <p>議事録署名委員には、山本委員を指名します。よろしくお願ひします。</p> <p>はじめに、7月定例会と7月臨時会について、議事録の承認を行います。</p> <p>議事録は既にお手元に送付し、確認していただきましたが、簡単な字句の訂正を除き、承認してよろしいでしょうか。</p> <p>(異議なし)</p>
重松教育長	<p>異議なしと認めます。それでは、承認します。</p> <p>なお、簡単な字句の訂正があれば、事務局にお伝えください。</p> <p>ここで、各委員に確認します。本日は傍聴希望者が1名おられます。</p> <p>会議は公開が原則ですが、一般報告②は兵庫県教育委員会より後日発表がある案件であり、現時点では公表されておられません。また、一般報告①は個人情報を含む案件であり、公開により率直な意見交換ができなくなる恐れがあるため、非公開としたいと思いますがよろしいでしょうか。</p> <p>(異議なし)</p>
重松教育長	<p>異議なしと認め、非公開とします。</p> <p>審議の順番についてですが、公開案件から先に行い、続いて非公開案件に移りたいと思います。</p> <p>では、はじめに私から報告をさせていただきます。</p> <p>コロナ禍がやっとひと段落というか、少しおさまってきているような状況です。まだまだ先は分かりませんが、そのコロナ禍でよく言われているのは、人と人との接触が非常に難しい状況があるということです。あたりまえのことですが、現在コミュニケーション能力は非常に重要とされています。コミュニケーションの基本は、相手の人格や考えを尊重する態度と言葉による伝え合いです。また、現在の社会生活の中で強く求められている「人間関係形成能力」や「効果的な発表・掲示する能力」の根幹にあるのがコミュニケーション能力だと言われています。</p> <p>さらに、子供同士、子供と教員、子供と親、子供と大人などの間で、言葉を介しての意思疎通や日常的なコミュニケーションが、コロナにより十分できなくなっていることから、いじめや不登校、家庭内暴力、少年非行などの子供をめぐる諸問題の一つの原因になっているのではないかと指摘もあります。</p>

そこで今回は、コミュニケーション能力についての様々な調査結果を見てみたいと思います。

最初は、就職についてですが、ある団体が実施したアンケートで、企業が採用選考時に何を一番大事にしているかというところ、第1位がやはりコミュニケーション能力で、全体の80.2%。それから2位が主体性を大事にすることで62.1%。第3位が協調性で55.0%となっています。やはりコミュニケーション能力の部分を見て採用しているということが分かりますし、コミュニケーション能力が8年連続で1位になっているそうです。社会の要請としてもやはりコミュニケーション能力を、非常に重要視していることが分かると思います。

それとは別に文化庁が「国語に関する世論調査」を、かなり前から行っています。平成28年度に全国の16歳以上男女3,566人に調査をかけて、2,015人から回答を得ています。56.5%の回答率です。調査方法は個別面接で、コミュニケーションのあり方として、社会においてコミュニケーション能力は重要かという問いに、「そう思う」「どちらかといえば言えばそう思う」と「そうは思わない」又は「どちらかと言えばそう思わない」というのを比べて見ますと、社会におけるコミュニケーション能力の重要性については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」という人が96.4%。「そうは思わない」などが1.8%となっています。注目したいのは、年齢別に見て、全ての中で20代が100%になっていることです。今までは、調査で100%になったことはなかったのだそうです。やはり若い世代でもコミュニケーションは大切だということを非常に感じているのだなということが分かります。

次に、コミュニケーション能力とは、「どんなものか」と聞いたところ、いろいろ挙がっていますが、一番は「言葉に関する能力」で33.1%。それから、場面や状況によって変化するので一概には言えないというのが二番目で32.6%。三番目は、俗に言う学校で勉強する「話す」「聞く」「書く」「読む」という言葉に関する能力で30.3%になっています。

次に「相手との伝え合いをどのように重視しているか」という項目で、「互いの考えていることをできるだけ言葉に表して伝えること」か「考えていることを全部言わなくても互いに察し合って心を通わせる」のどちらかを重視しているかを聞いています。できるだけ言葉に表して伝えることが全体の50%。それから考えていることを全部言わなくてもお互いに察しているということが30%。残りは分からないということになっています。平成20年度に調査した結果と比べると、言葉として伝えるというのが38%から50%に上がっています。逆に察し合っ

てというのが33%から30%に下がっています。ということは、きちんと言葉に出して伝えるということが非常に大事だということがだんだん上がってきているのかなという感じがします。

それから、相手に配慮したコミュニケーションということで、人と実際に会ってコミュニケーションを図るときにどんな態度が大切ですかと尋ねているのですが、回答としては「相手によって違うので、一概には決められない」というのが44.5%。「初めは控え目だが、少しずつ積極的にかかわろうとする態度」が27.2%。「積極的に相手とかかわろうとする態度」が全体の18%ということになっています。基本的には、まず様子を見て相手と対応するときに控え目で、それからだんだん積極的になるという態度が、大切だと思っているようです。

ふだんの生活の中で、「こんにちは」「おはようございます」「さようなら」などいろんな挨拶をしたいと思います、その挨拶の仕方についても聞いています。「こんにちは」などの挨拶の言葉だけでなく、相手を気遣うような言葉や時候などを付け加えた方がいいのか、そんなことをしなくても、ただ挨拶だけでいいのかということを知っているわけですが、結果は、時候などそういう言葉を入れて挨拶することが必要だというのが57.6%、ただ単に挨拶だけでいいというのが25%になっています。他に会釈だけでいいなどが入っていますが、やはりただ「こんにちは」と言うだけではなくて、そこで相手と話をする、顔を合わせたときに何か挨拶ができるということが非常に大切だということが分かります。これについては、どの年代もほとんど変わりませんが、特に40代から50代は、6割を超える状況があります。

また、同じ調査の中で、情報化社会におけるコミュニケーションについても調べています。インターネットにおける「炎上」という現象が、世間の注目を集め騒がれる状況になっていますが、これを好ましいと思うか、思わないかという問いがありました。好ましいというのが5%、好ましくないというのが77.5%ですので、やはり「炎上」ということは好ましくないということを経験している人が多いです。注目すべきは、20代だけ好ましいが13%あって非常に高いので、情報に対する考え方が違うのかなというのを感じています。

それから、ほかの質問として、「最も親しい人に自分の意見を述べる場合」に、自分の本音を伝えやすいと感じる手段・方法はどんな方法ですかということで、直接会って話をする、携帯や固定電話、手紙や葉書を出す、パソコン等の電子メール、テレビ電話、それからSNSやブログなどを聞いているわけですが、回答は複数回答で、やはり直接会って話をするというのが圧倒的で90%。携帯電話が

次で30%。後は20%を切っているという状況ですので、やはり直接会って話をするというのが非常に高くなっており、全ての世代で80%を超えています。携帯電話というのが20代から30代で、ほかの年代よりも高くて4割となっています。固定電話は、逆に60代で非常に高くて2割程度が回答しています。やはり情報ツールの使い方は、各世代によってかなり違うことが今回はっきり表れています。また、関連質問の中で、最も親しい人に対して誤解やトラブルを招きやすいと感じる手段・方法を尋ねると、一番多かったのはSNSや携帯・パソコンでの交流で、要するに人と人直接会って話をするというのが非常に大事で、言葉や文字だけではなかなかうまく伝わらないという結果になっています。

それから、コロナ禍におけるコミュニケーションについて、令和2年度に新たに調査をしています。直接会うのではなく、郵送で回答してもらうという形でした。生活の変化とコミュニケーションに関する意識の質問で、自分と相手がマスクをつけている状態で会話する場合、マスクをつけていないときと比べて、話し方や態度は変わりますかということを探っています。変わると思うのが62.4%、変わらないと思うのは36.7%という形になっています。

変わることがあると思うのは、20代から40代が7割前半とかなり高くなっている反面、70歳代は49.9%となっています。ということは、70歳以上の人は、外出又は人と接する機会が非常に少なくなっているため、マスクによる変化について20代ほど意識していないという結果になっています。マスクをつけると変わることがあると答えた62.4%の人に対して、どんな点が変わるのかを、同じように複数回答で探っています。大きく四つあって、一つは声の大きさに気を付けるようになる。二つ目が、はっきりした発音で話すようになる。三つ目は、相手との距離に気を付けるようになる。四つ目が、相手の表情や反応に気を付けるようになるという結果でした。一番多かったのは「声の大きさに気を付けるようになる」で全体の74%、二番目が「はっきりした発音で話すようになる」で57%、三番目が「相手との距離に気を付ける」で45%、四番目が「相手の表情や反応に気を付けるようになる」で39%でした。これから窺えることは、マスクをつけると声の大きさや、はっきりした発音で話すということが非常に大切だということで、表情や反応については影響が少ないという回答で、39%はありますが、ほかに比べると少ない結果になっています。これは、前に一回少し話をしたことがあると思いますが、日本人は相手の目を見て話しますが、アメリカや外国の場合は、外国というかヨーロッパの場合は、口元を見て話をするという文化の違いが大きいのではないかと考えています。ただし、年代別に見ると

声の大きさについては、16歳から19歳は66.3%、70歳以上が67.3%と全体の74%に比べると低くなっています。はっきりした発音も全ての年代で5割を超えていますが、やはり年代によって回答が違ってくるということがあります。次に、パソコン、スマートフォンなどの機器を使ったり、ビデオで通信をしたり、ウェブ会議、オンライン授業に参加したことがありますかということと同じように聞いています。やはり年代による差ははっきり出ており、16歳から19歳は79.9%が実際参加したことがあると答えていますが、逆に70歳以上は参加したことがないが85.2%という結果になっていて、明らかに年代による違いがはっきりする回答になっています。

最後に、「クラスター」「コロナ禍」「ソーシャルディスタンス」「3密」など、色々な言葉があらたに使われるようになっていますが、その中でどの言葉が印象に残っていますかと聞いています。「コロナ禍」「ソーシャルディスタンス」「3密」「濃厚接触」「クラスター」「不要不急」「ステイホーム」については、7割ぐらいが認知していましたが、ただ一つ「ウイズコロナ」だけは、これは分からないという結果になっています。何のことかさっぱり分からないので、この言葉を使うときは、きちんと説明をしてもらった方がいいというのが、回答として出てきています。コロナ禍でいろんな言葉が出てきますが、定着しているもの、そうでないものについて、研究が行われているというのが現状です。

コロナ禍でオンライン会議が広まり、視覚や聴覚はデジタル化され互いのコミュニケーションの道具として使われていますが、ノーベル医学賞を取った二人の人が、人間の五感のうちの味覚・臭覚・触覚はデジタル化できないと言っています。聞いたり、見たりはデジタル化することはできるのですが、触ったり、味覚などはできないという部分でこの二人はノーベル賞を取っています。

一人は、熱さの受容体の研究、人間は何で熱さを感じるのかということでノーベル賞を取りました。もう一人は、熱いものを触ったり、触れられたりするとき何で触った部分が分かるのかということで、ノーベル賞を取っています。五感の研究のうち、四つの感覚がノーベル賞を取っており、味覚だけがない状況ですが、これから多分、味覚も取れるようになるだろうと言われています。人間は五感を通していろんなことを感じるわけですが、それが遮断されたときに、どうなるかということが、ノーベル賞の研究でも見て取れます。

コミュニケーションをとる際に、ただ単に言葉を伝えるだけでなく、見る・触るという五感を合わせて使うことも大切になってくると思っています。今、コロナ禍でコミュニケーションが大切だと再確認しているところで、国が調査した国語

藤原教育委員	<p>に関する世論調査の結果から、こういうことが分かったという観点から話をさせていただきました。</p> <p>私からは以上です。</p> <p>何かこれに意見がありましたら、お願いしたいと思います。</p> <p>ありがとうございます。コミュニケーション能力というのは、ここ10年、20年ぐらいで言われ出して、「コミュカ」と略して言われて、コミュカがないというのが、いじりの対象になるわけです。ただ、そのコミュカという概念自体が非常に抽象的なもので、一体何があればコミュカがあるのか、私も若いときからずっとよく分からないままです。先ほどの調査によると、以心伝心で何かを分かることよりは、言葉によって考えを伝え、相手の考えを理解することと、世の中的には捉えられているようで、それはそれで正しいと思います。</p> <p>ただ、今さらに、そういう言葉によるコミュニケーションをもとに、相手の本当の気持ちを察して、そこに共感することまで求められるようになってきていると言われていています。近い将来コンピュータが言葉を理解することができるようになってしまうので、人間に残されている仕事は、そこから共感することであると聞いていますので、この先は、さらなるそのコミュカを求められる世の中が来るのだなと思います。</p> <p>では、一体それはどうやったら身に付くのかということなのですが、結局言葉ではない部分を読み取らなくてはいけないということ、言葉を読み取った上で、言葉でないところを読み取らなくてはいけないということになるので、それは、表情や、身振りであるのかと考える次第です。そうなると、このマスクが非常に障壁になるというのは、皆さん共通認識だと思います。学校現場においても、いつまでマスクをつけるのかということを含め、そろそろ出口の話を始めていくべきなのだろうと感じるところです。もともと子供たちには、コロナの害というのは小さかったわけですから、果たしてどこのタイミングでマスクが外せるのかという議論が、そろそろ日本社会全体としてやっていくべきなのだろうと考える次第です。</p>
山本教育委員	<p>コミュニケーションということで、大変幅が広いのですが、特に話し合いということについて今聞きながら考えていたこととお話します。</p> <p>インターネットの現状の話がありましたが、結局「炎上」ということは、自分の考えと違う人を認めないというスタンスが最初にあり、AかBかというとき</p>

	<p>も、自分しか正解でないというスタンスで向かっているということが非常に大きいと思います。</p> <p>話し合いということに関して、教育の現場の話をして。新学習指導要領に、「主体的・対話的で深い学び」に授業を変えましょうということが一つのキーワードとして出てきています。「対話」という言葉が出てくるのですが、「対話」ということが何か分かっているようで分かっていない部分があります。対話ということのコンセプトで大切なことは、まずお互いが対等ですよというスタンスをとることです。それはイコール相手を認めますよということ。ですから、「まず聞きましょう」ということをすごく大切にする。二つ目に、結論を出すことを目的としないということ。学校現場はどうしても一つの答えを求めたいところなのです。もちろん、テーマによって、一つのことを決定するような話し合いはありますし必要なことですが、全てがそうではなく、対話のエッセンスを押さえ、場合によっては教師も子供と対等になって話をする。そういうコミュニケーションの場というのが、ますます学校には必要になってくると思えました。</p> <p>どうしても一つの答えを求める、閉ざされた話し合いということになりがちですので、そこをどう変えるかということが大切なポイントだと思います。</p>
長岡教育委員	<p>コミュニケーションの能力とは、本当に何を指すのだろうと思います。言葉のやりとり、言語のやりとりだけではなく、最近の学生などを見ると、傷つけやすい、傷つけているだけではなくて傷つきやすい。考えていることをしっかり伝える、表現する、そして言っていることを理解するというのは、もちろん大事なのですが、やはり互いに察するというところが、一番難しいけれども、言葉のやりとりだけではなく、その裏にその言葉が持っている意味を考えないといけないのだなど。ただ、小さな子供たちがどこまでそういうことができるかというのは難しいですが、発達するにつれそういうことも分かってくるような、そういった関わり方を大人はしていかなければならないと思います。</p>
側垣教育委員	<p>人間として最初のコミュニケーションというのは、生まれてすぐに赤ちゃんがお母さんのおっぱいを飲む、そこから始まるのかなと今考えています。お母さんとのコミュニケーションから始まって、それがだんだん成長とともに広がっていく。やはり一番大切なのはそのあたりの乳児、生まれたての子と親との関係性というので、そういうものが育っていくものだと思います。家庭の中でマスクをつけながら授乳する人は余りいないと思うのですが、コロナが始まって私たち保育園で、</p>

乳児のクラスはマスクをつけて目だけで言葉を出すのですが、そういうところをどうしようと非常に悩みました。顔を見て子供は育っていく、表情や、親の感情をくみ取っていくことで成長していくわけですから、当初はマスクをつけないで、保育をしていこうとしていました。ただいろんな意見があって、つけざるを得なくなった。今おっしゃっているように、もし表情でコミュニケーションがとりにくくなったのだったら、触る、抱きしめる、抱き上げるなど、いろんな身体表現や感触ですね、そういうことも大切にしていかなければいけないと今お話を伺って感じました。

それと4、5歳の子供たちは保育の中で、設定保育というよりも受容保育で子供たちが自分たちで遊びを選ぶ。その中で、朝の集まりとか子供たちのグループミーティングがあって、今日は何して遊ぼうか、どこの公園へ行こうかということ話し合いするのです。で、僕はあっちの公園へ行きたい、私はこっちの公園へ行きたいと、そういうことをみんなで相談するのです。それで意見のやりとりをして、最終的にここには行きたいが、あなたの言っていることも分かるよ、というような互いの話を聞き合う経験をする。保育士もそこにこうしなさい、ああしなさいとは一切言わないのです。子供たちがどう思っているかということについて助言をしていくという、そういう経験を今うちの幼児に毎日させています。その中でお互いの気持ちをくみ取る、自分の意見をまとめて言うなど、日常生活体験の中で、そういう経験を幼児期からすることも大切だと思っています。

もう一つ言うと食事も今コロナで、なかなか難しいのですが、うちはビュッフェスタイルで、自分で食べる量を決める。これが嫌いだと言ったら、食べられるだけ取って食べてごらんという形で、子供が自分自身で選択するチャンスをできるだけたくさん提供していくという形をとっています。日常生活の中でそういう経験を積み重ねていくことによって、自分自身も大切に、相手も大切にするという基本的なことを学んでいけるのではないかと思います。

ですので、コミュニケーションというのは、学校教育の中だけではなく、乳児、生まれてすぐからの成長の中で培われて行くのだなという、そういうことを今感じています。

重松教育長

ありがとうございます。なかなかコミュニケーションというのは難しいですね。言葉だけではなく、色々な方法のコミュニケーションについて、皆さんが一生懸命考えていることがわかりました。

ほかにはございませんか。

学校保健安全課長	<p>「学校歯科医の解嘱及び委嘱の件」につきまして、お手元の資料、報告第15号をご覧ください。</p> <p>瓦木小学校の学校歯科医につきまして、令和3年9月30日付けで退任したい旨の申し出がありました。</p> <p>そのため、令和3年9月30日付けで解嘱し、合わせて新たな学校歯科医を令和3年10月1日付けで委嘱するものです。</p> <p>以上、ご審議、お願いします。</p>
重松教育長	<p>今、説明が終わりました。</p> <p>これより質疑討論に入ります。</p> <p>本件にご意見、ご質問はありませんか。</p> <p>よろしいですか。</p> <p>なければ採決に入ります。</p> <p>報告第15号については、これを承認してよろしいでしょうか。</p> <p>(異議なし)</p>
重松教育長	<p>異議なしと認めます。</p> <p>では、これより非公開案件に移ります。</p> <p>申し訳ないですが、傍聴者の方はここで退出をお願いします。</p> <p>(傍聴者退出)</p>
重松教育長	<p>一般報告①「児童生徒の状況について」を議題とします。</p> <p>学校保健安全課長、お願いします。</p> <p>(非公開)</p>
重松教育長	<p>ほかにはございませんか。</p> <p>よろしいですか。</p> <p>なければ次に、一般報告②「令和3年度募集(令和4年度入学)西宮市立高等学校の生徒募集定員の決定について」を議題とします。</p>

<p>学事課長</p>	<p>学事課長、お願いします。</p> <p>一般報告②「令和3年度募集（令和4年度入学）西宮市立高等学校の生徒募集定員の決定について」ご説明をいたします。</p> <p>お配りしております資料をご覧ください。</p> <p>市立高等学校の令和4年度入学者の募集定員につきましては、資料の1ページのとおり、2校合計で600名の募集を行います。学級数、定員ともに昨年度から増減はございません。</p> <p>生徒数の状況等につきましては、資料2ページをご覧ください。</p> <p>これまでの経緯といたしまして、県教委と今後の公立高校の定員見通しについて意見交換を行い、中学校卒業者が減少傾向にあることから、令和3年度の募集から西宮東高等学校を1学級減しております。</p> <p>なお、募集定員の公表は、10月25日に県教委から「令和4年度兵庫県公立高等学校生徒募集計画」としてプレス発表されると予定を聞いております。</p> <p>説明は以上でございます。よろしくお願いいたします。</p>
<p>重松教育長</p>	<p>説明は終わりました。</p> <p>本件にご意見、ご質問はありませんか。よろしいですか。</p> <p>では、なければ一般報告②を終了します。</p> <p>以上で予定されていた議題は全て終わりました。</p> <p>これをもちまして、第7回、教育委員会定例会を閉会します。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>(終了)</p>